

令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

活動団体の活動におけるテーマ

『共同堆肥舎を中心とした市民参加による地域循環型農業促進事業』

活動団体の活動地域：沖縄県中部地区

活動団体名：中部地区和牛改良組合

中間支援主体名：国立大学法人琉球大学

活動団体と地域の紹介

活動団体について

中部地区和牛改良組合は、2014年に設立され沖縄本島中部地区の6市町村（うるま市、沖縄市、読谷村、西原町、嘉手納町、宜野湾市）の畜産農家から構成されており、**組合員数は260名**でほとんどの組合員が**50歳以上**である。母牛の飼養頭数は3,000頭で、子牛の生産頭数はおおよそ2,000頭である。

本団体は、和牛の改良を計画的に行い、優良子牛の生産や牧草栽培の普及に携わり、農家経営の改善発展を目指している。うるま市の和牛農家においては飼料価格高騰への対応、担い手不足、**畜産廃棄物処理**が大きな課題となっている。

地域について



沖縄本島中部エリアは、それぞれに独自のカラーを持ったユニークなまちが集まっている。

読谷村 : 「やちむん（焼物）の里」として知られ村内にはたくさんのやちむん工房があります。読谷村は西海岸に面しており、残波岬から眺める夕陽は必見。

嘉手納町 : 日本における甘藷（サツマイモ）発祥の地、戦後は町域の82%が米軍基地によって占有されている。東シナ海へ注ぐ本島最大の流域面積で、流量も豊富な2級河川の比謝川がある。

沖縄市 : 県内で那覇市に次いで人口の多い、沖縄とアメリカ文化が入り混じった「チャンプルー文化」の町。当市にはライブハウスも多く、オキナワンロックや民謡、エイサーなど多様な音楽文化が楽しめる。

うるま市 : うるま市は、離島を有し海中道路を渡って行ける浜比嘉島や伊計島には、離島ならではの素朴な風景を眺め癒しを求めることができる。また、うるま市は闘牛がさかんな地域である。

宜野湾市 : 那覇市の外延的な拡大に伴い、市街地化が進展しつつありシティーリゾートとして人気なまち。

西原町 : 幼児教育から大学教育が可能な教育施設に恵まれた「文教のまち」。

活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

農家と市民の行動変容によって、畜産廃棄物の適正処理を行い牧草地や農耕地へ還元するといったことが当たり前に行われている地域 ⇒ 堆肥の循環により、後世に誇れる持続可能な農業ができる地域にしたい。

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

- ・堆肥製造業者による堆肥化技術の導入
- ・コントラクター事業の創出
- ・自治体・JAとの協力により、市民農園の創出
- ・組合で活用できる共同堆肥舎の設立

ローカルSDGs事業として取り組む内容

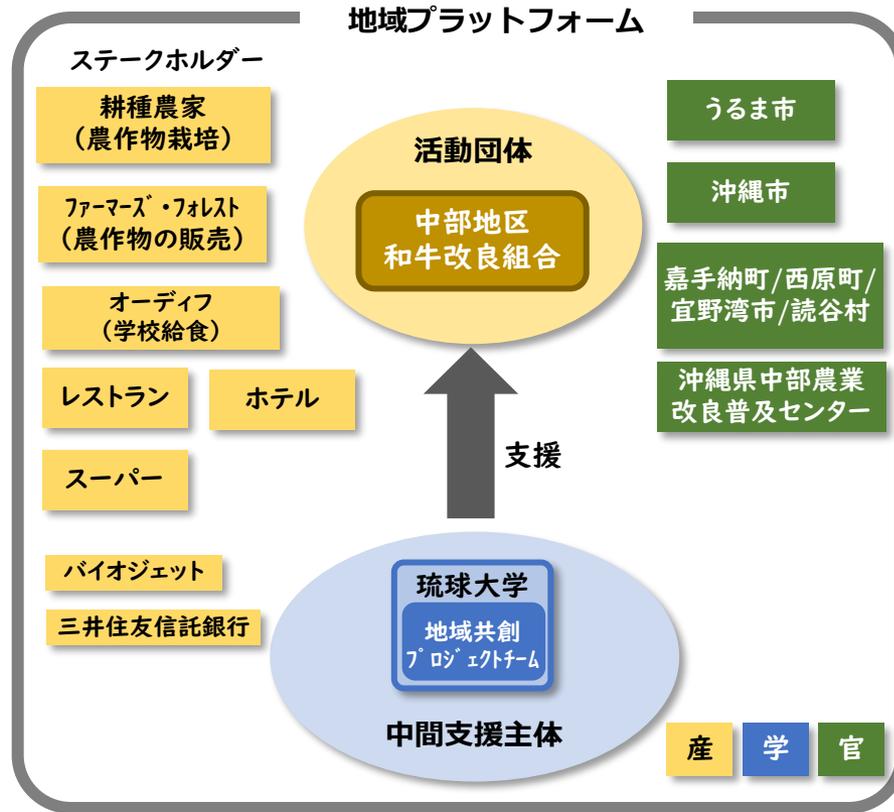
- ・効率的かつ品質の良い堆肥作り
- ・堆肥の普及
- ・沖縄県中部地区の畜産農家と耕種農家のマッチング
- ・中部地区和牛組合産堆肥を用いた農作物の地産地消活動

地域の現状

- ・畜産現場から出る悪臭
- ・畜産廃棄物の不適切な処理による環境への悪影響

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

現時点での体制



https://www.delica-kk.co.jp/product_category/work02/

モノ：共同堆肥舎，マニユアスプレッダー

ヒト：コントラクター

情報：ビジョンを共有するシステム・地域事業者同士の連携

ローカルSDGs事業の詳細

地域プラットフォーム（PF内のメンバーやコアメンバー）で生み出そうとしているローカルSDGs事業の詳細

- ・ **循環型農業推進活動（うるま市，和牛改良組合）**
うるま市循環型農業推進協議会へ参加し，循環型農業の推進活動を進めている。
- ・ **効率的かつ品質の良い堆肥作り（うるま市，和牛改良組合）**
うるま市畜産農家循環型堆肥利用促進事業において堆肥化の作り方について検討している。
- ・ **堆肥の普及（中部農業改良普及センター）**
良質な堆肥を普及していく。中部地区の畜産農家と耕種農家のマッチング
- ・ **中部地区和牛組合産堆肥を用いた農作物の地産地消活動（ファーマーズ・フォレスト，オーディフ）**
組合堆肥を用いて栽培した農作物のストーリー説明をし，販売や学校給食での提供を行う。

以上の取り組みにより地域資源を循環させ，農業生産現場から食卓までの中部地区経済の向上を目指す。

3か年状態目標

2026年度末の状態目標

- ・ **共同堆肥舎を中心とし，地域住民の積極的参加による地域資源循環型農業の実現**
共同堆肥舎にて作成された堆肥が，農家間ネットワークにより市民農園や耕種農家の農地へ還元され，そこで得られた農産物が，地域の学校給食やスーパー，レストラン，ホテルなどで利用されることを目標とする。

2025年度末の状態目標

- ・ **ステークホルダー間の連携を強化する**
ステークホルダー間での地域資源循環社会におけた実施体制の検討
- ・ **勉強会**
堆肥活用の勉強会，有機農業に取り組む生産者の圃場を視察，ビジョン形成WS

2024年度末の状態目標

- ・ **体制を整える**
中部地区和牛組合内での連絡体制を作り，各イベントでの参加数を一定数確保する。
- ・ **仲間を探す**
耕畜連携協議会を活用し，耕種農家との意見交換
- ・ **勉強会**
堆肥化の勉強会，必要に応じ堆肥センターの視察，ビジョン形成WS

中間支援主体より

中間支援主体の紹介

●琉球大学は、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」として、豊富な知識と知恵を活かし地域との様々な連携を基盤に、地域の発展に貢献することをミッションとしている大学である。

●この事業では、本学の研究推進機構「地域共創プロジェクトチーム」が支援を行う。地域共創プロジェクトチームは、食資源循環、環境モニタリングにより地域課題を解決するためのチームで、農学部、理学部、工学部、国際地域創造学部、熱帯生物圏研究センター、総合技術部、研究企画室、研究推進課と多岐に渡るメンバーが所属し、学部・部局をこえて地域貢献活動をするチームである。

活動団体の取組へのコメント、中間支援の方針・計画

●中部地区和牛改良組合は、約260名の組合員のうち、うるま支部で半数以上を占めている。まずは、うるま支部の組合員と積極的に堆肥化の実証試験などを進めて、小さな循環の成功例を示し、組合全体へ広げていけたらと良いと思う。

●支援として、勉強会、ワークショップ、視察先の選定、堆肥の分析などを行う予定である。